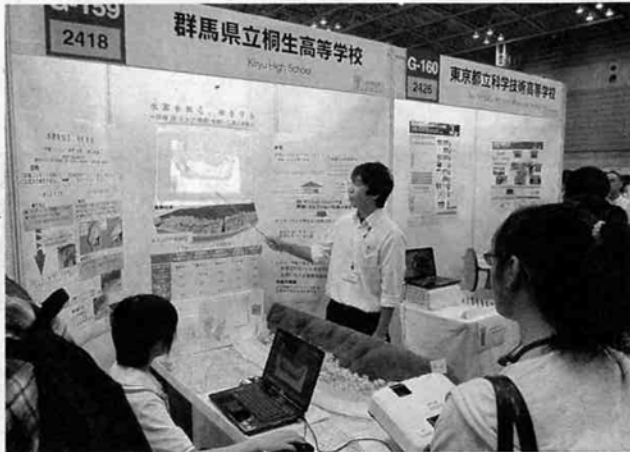


文部科学省指定SSHの生徒ら研究発表会

桐高チーム、初の入賞

菱町対象にした水害減災研究で



3Dマップや映像を使いながら、研究成果を説明する桐高生たち（パシフィコ横浜で）

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された全国178校の生徒たちが日ごろの研究成果を発表する「SSH生徒研究発表会」が8、9の両日、横浜市のパシフィコ横浜を会場に開かれ、県立桐生高校（尾池武校長）の生徒たちがポスター発表に参加。対象127校中の20校に与えられる「ポスター発表賞」を受賞した。同校が研究発表会に参加するのは5回目だが、受賞は初めて。リーダーの藤本あさひさんは「達成感とうれしさでいっぱい」と喜びを語っている。

「達成感とうれしさでいっぱい」

夏休みに行われるSSHの全国大会。同発表会は全国のSSH指定校が1年間の研究成果を発表する、全国大会で、毎年夏休みに合わせて行われている。スティー発表とポスター発表からなる。昨年は東日本大震災の影響による計画停電が予定されていたこと、今年さらに5カ年の指定更新を受けた桐高。今年からは八つの研究グループの中から、校内審査などにより藤本さんをリーダーとする「水害を知



初の「ポスター発表賞」を受賞した桐高の研究チーム

る、命を守る3Dマップ（模型）を用いた減災研究」が学校代表として参加した。メンバーは藤本さんのほか、阿久津美咲さん、池田佳奈子さん、柴崎さやかさん、今泉聖也さん、小林友樹さんの計6人。群大大学院工学研究科社会環境デザイン工学の松本健作助教の指導を受けた。その結果、破堤口や堤防沿い、山沿いの地域

で、想定されているスピードよりも流れが速いことなどが判明。防災マップなどでは再現しきれない危険があることを踏まえ、災害に対する意識を高め災害を減らせる方向につなげるというもの。生徒たちはブースにポスターのほか3Dマップを持ち込み、小型プロジェクターで動画を投影しながら、来場者に研究の成果を説明。審査の結果、初のポスター発表賞受賞となり、全体会で表彰状を授与された。指導の先生たちや周囲の協力あつてリーダーの藤本さんは「桐生高校」の名前がホールに響いたときは、達成感とうれしさで胸がいっぱいでした」と振り返り、「お忙しい中ご指導くださった先生や周囲の方々の全面的な協力があったことと思います。とても貴重な体験でした」などと感謝の意を示していた。